

JET からの手紙

ドイツのホストタウンとしての取り組み ～末永く続く交流のために～

新潟県上越市教育委員会オリンピック・パラリンピック推進室
Yannick Dietz (ディーツ・ヤニック)

はじめに

「国境の長いトンネルを抜けると…」
湿度でジメジメ！

私が着任した 2019 年の 8 月、来日直後のオリエンテーションの会場となった東京都は、カラッと暑い立派な真夏日の 3 日間でした。一方、配属となった雪どけの清流がもたらす緑豊かな新潟県上越市にたどり着くと、蒸し暑くて一瞬で汗びっしょりでした。ジメツとした暑さは、不慣れな人には不快に感じますが、上越市は山や海といった豊富な自然に恵まれ、米どころとして知られていることから、ドイツパンで育ったお米に無知な私でも「確かにこのご飯はうまい！」と思ったことが 3 年経った今でも鮮明な記憶として残っています。

ドイツのホストタウン

上越市は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におけるドイツのホストタウンとしてドイツ体操チームとパラリンピック柔道チームの事前合宿を受け入れることになっていたので、ドイツ人 CIR を採用することになりました。そういった縁から私が上越市に着任し、着任から 1 週間後には早速、上越市長やドイツ柔道連盟の役員などが出席してのドイツパラリンピック柔道チームの合宿受入に関する覚書締結式が行われ、初めて通訳を務めました。高温多湿の他にも原因があったのではないかと思います。ここでも汗びっしょりでした。

その後も次々と東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた準備を進めていきました。着任して 3 か月後の 2019 年 11 月には、ドイツトランポリンチームが東京で開催される世界トランポリン競技選手

権大会に出場するため、2020 年 2 月にはパラリンピック柔道チームが 3 月に開催される東京国際視覚障害者柔道選手権大会に出場するために上越市で事前合宿を行いました。

合宿受入でドイツ人について知ったこと

トランポリン選手が飛ぶ高さは、女子で 6 m、男子で 8 m にも達し、マンションの 3～4 階に相当する高さですが、合宿期間中の文化交流として行った座禅体験では、チーム全員足が硬くトップアスリートでさえも正座ができなかったことにびっくりしました。



ドイツトランポリンチーム 座禅体験 (2019 年 11 月)

「Beyond」ホストタウン

2020 年 2 月のパラリンピック柔道チームの合宿期間中、国内でも新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念されるようになり、ドイツチームの選手が大好きなバイキング形式のお店の休業が相次いだ挙句に、東京で開催予定であった大会も中止となりました。

そして、3 月 24 日、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の延期が決定されました。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、さま

ざまな仕事に取り組んできていた私たちは拍子抜けしてしまいました。

大会延期という予期せぬ事態に見舞われましたが、上越市は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機にホストタウン事業に取り組み、2020年以降も、児童生徒を始め上越市民がスポーツや国際交流を通して生き生きと暮らせるようなまちづくりを目指しています。

そのため、私自身は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が延期になってしまい拍子抜けしてしまっただけで、活動期間が延長するという前向きな気持ちもありました。

当室では、ドイツ文化の発信に全力を尽くして、地元ケーブルテレビ局と連携してドイツ紹介番組を企画したり、小学校とドイツの中等教育学校をオンラインでつないで交流を行ったりと、コロナ禍であっても積極的に国際交流を行ってきました。ドイツと日本の学校をつな



ドイツの6年生とオンラインで交流
(2020年10月)

いだオンライン交流は、ホストタウンサミット2021におけるオンライン交流賞・特別賞を受賞しました。

地域に溶け込む

上越市で過ごす夏は、上越で生まれた有名な戦国武将上杉謙信公を偲んで開催される謙信公祭などのお祭りが中止になり、感染拡大防止のため旅行ができなくても、海や山で過ごし、割と快適に暮らせていたため「慣れてきたな～」とっていました。登山をしていると休憩中の人に「あっ！テレビの人ですね？」と話しかけられることもあったりして、上越市民の皆さんもドイツ人CIRがいることを知っているようです。

冬は、いよいよ雪国体験。上越市は日本スキー発祥の地として知られ、日本で初めてスキーの指導が行われた歴史があり、市内の学校では当たり前のようにスキーの授業があります。1年目の冬は上越市では珍しく積雪が非常に少なく、シーズン中でも小雪のためスノーボードができなかったことがありましたが、2年目の冬は積雪が多すぎて、雪かきが終わるときにはすでにお昼の時

間になっていて、疲れきってしまいスノーボードができなかったこともありました。



ケーブルテレビでドイツ体操チームを紹介

本番から将来に向けて

2021年度に入るとどんどん本番が近づいてきました。「がんばれ、ドイツ！」をテーマにしたドイツ語教室や市民に向けた講演会の開催、受入マニュアルの翻訳などで忙しく、あっという間にドイツ体操チームが東京に到着していました。毎日のPCR検査では、「全員陰性です」という検査結果にホッとしながら、代表選手は、海を見渡せる練習会場で、オリンピック出場の直前まで練習に取り組みました。事前合宿の様子がドイツメディアにも取り上げられたり、さまざまなPR活動に挑戦したりしましたが、将来に向けて私が特に大事だと思ったのが児童生徒とドイツ選手とのオンライン交流でした。

パラリンピック柔道も体操も、ドイツチームの合宿受入を支えてくださった地域のスポーツ団体の皆さんからは、「今後、ドイツの団体との縁をいかしてドイツを訪問したい。」という熱い思いを聞かせていただきました。

今回の東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会をきっかけに国際交流に興味を湧いた上越市の皆さんの今後の活躍を楽しみにしています。

プロフィール



Yannick Dietz
(ディーツ・ヤニック)

ドイツ、ボン出身。高校卒業後、2年間米国・マサチューセッツ州でボランティア活動。その後、ハンブルク大学で日本学を専攻し、神戸に半年、大阪に1年間の交換留学を経て、2019年に修士課程を修了。国際交流が平和にもつながるのではないかと思います。ドイツと日本の懸け橋となるよう一生懸命努力しています。